

2024 年 5 月 18 日

May 18, 2024

東京大学大学院農学生命科学研究科
農業・資源経済学専攻（修士・博士課程）
2025 年度入試ガイダンス

Department of Agricultural and Resource Economics
Graduate School of Agricultural and Life Sciences
The University of Tokyo
Guidance for Entrance Examination 2025 (master's and doctoral courses)

予定表 Timeline

- 13:15-13:30 専攻教員と研究室の紹介（全教員参加、日英併用）
Introduction of faculty members and their laboratories (all the faculty, bilingual session)
- 13:30-13:45 入試および課程の概要（日本語：安藤、英語：万木）
Overview of the entrance examination and the graduate program (Japanese session by ANDO, English session by YURUGI)
- 13:45-14:45 研究室訪問（各研究室、日英併用）
Laboratory visits (bilingual sessions by each laboratory)
- 各研究室では 1 時 30 分および 2 時からの 2 回に分けて研究室の研究内容や教育方針等について詳しい説明をします。その間、随時、質問を受け付けます。途中の参加・退出も可能です。
Each laboratory will have two sessions from 13:45 and 14:15 for detailed explanation about laboratory's research and education. During the session, you can ask questions any time. Joining and exiting are permitted any time.
- 14:45- 大学院生によるガイダンス
Guidance by graduate students

専攻教員 Faculty Members

専攻での役割 Role in the department		肩書き Title	名前 Name	Email
専攻長 Head of Department		教授 Professor	櫻井武司 SAKURAI Takesh	takeshi-sakurai[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
専攻主任（大学院担当） Head of Graduate Program		教授 Professor	安藤光義 ANDO Mitsuyoshi	ando[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
5号委員（大学院担当） Assistant Head of Graduate Program		准教授 Assoc. Professor	万木孝雄 YURUGI Takao	yurugi[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
学生受入の有無 Acceptance of students				
修士 Master	博士 Doctor			
○	×	教授 Professor	木南 章 KIMINAMI Akira	akira[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
○	○	准教授 Assoc. Professor	八木洋憲 YAGI Hironori	youken[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
○	○	教授 Professor	安藤光義 ANDO Mitsuyoshi	ando[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
○	○	教授 Professor	小嶋大造 KOJIMA Daizo	akojima[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
×	×	教授 Professor	松本武祝 MATSUMOTO Takenori	amat[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
○	○	教授 Professor	齋藤勝宏 SAITO Katsuhiro	katsuhisaito[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
○	○	准教授 Assoc. Professor	川崎賢太郎 KAWASAKI Kentaro	kawasaki-kentaro[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
×	×	教授 Professor	中嶋康博 NAKASHIMA Yasuhiro	nakashima60[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
○	○	准教授 Assoc. Professor	中谷朋昭 NAKATANI Tomoaki	atn[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
×	×	教授 Professor	櫻井武司 SAKURAI Takeshi	takeshi-sakurai[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
○	○	准教授 Assoc. Professor	万木孝雄 YURUGI Takao	yurugi[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp
専攻所属 Attached to the department		助教 Asst. Professor	西原是良 NISHIHARA Yukinaga	yukinaga-nishihara[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp

大学院入試について

1. 入試実施方法について

入試実施方法については、募集要項を確認してください。募集要項は、農学生命科学研究科のウェブサイト (https://www.a.u-tokyo.ac.jp/grad/grad_applicants2.html) に掲載されています。

当専攻では、外国語試験は TOEFL (TOEFL-iBT あるいは TOEFL-iBT Home Edition) のスコアの事前提出、専門科目試験は事前に提出する小論文とそれに関するオンラインの口述試験により行います。なお、専門科目は願書出願の際に選択します。出願者数によっては提出された書類に基づく事前選抜を行う可能性があります。入試実施方法の詳細は募集要項で確認してください。

2. 願書の提出について

入学願書等は、上記の研究科ウェブサイトからリンクされる WEB 出願システムにて作成してください。WEB 出願システムは 6 月上旬頃に公開の予定です。

自分の将来の研究内容・研究計画等については、願書を提出する前に、指導教員として志願する教員に連絡ないし相談することをお勧めします。

3. 過去の入試問題の入手

過去の入試問題 (修士課程) の入手方法についても、上記の研究科ウェブサイトに掲載されています。博士課程の入試問題は、農学部 3 号館 1 階学生サービスセンターの教務課窓口で過去問題集をお貸しいたします。ご自身でコピーを取って、窓口に戻却して下さい。ただし、2020 年度に実施した入試 (2021 年度入試) 以来、当専攻の専門科目試験は小論文と口述試験により実施されているため、研究科ウェブサイトに掲載されている「複写センター」では販売していません。2020 年度以降の入試問題が必要な方は、専攻の HP に公開していますので、そこから入手してください。

4. 過去の試験の実績

修士課程の過去 9 年間の志願者数、合格者数は下の表のようになっています。

入試年度	志願者数			合格者数			入学者数		
	学内	学外	合計	学内	学外	合計	学内	学外	合計
2016 年度	7	17	24	6	10	16	5	10	15
2017 年度	5	12	17	3	5	8	3	5	8
2018 年度	2	19	21	2	10	12	2	9	11
2019 年度	7	18	25	7	8	15	7	6	13
2020 年度	7	13	20	6	4	10	4	5	9
2021 年度	8	12	20	4	5	9	3	5	8
2022 年度	13	15	28	11	8	19	10	7	17
2023 年度	11	12	23	10	8	18	9	8	17
2024 年度	19	22	41	11	7	18	10	7	17

(注) 外国人学生 (特別選抜) が内数扱いで含まれた数字である。2024 年度入試の入学者数の「学外」と「合計」は 2024 年 10 月入学予定者を含む。

なお、2024 年 5 月時点での大学院在籍者数は修士 38 名、博士 25 名の計 63 名 (うち留学生が 31 名) となっています。

大学院課程について

5. カリキュラム

1) ゼミと講義

専攻では、テキストゼミ、論文指導ゼミ、集中講義（集中講義は原則的に外部の非常勤講師が担当）が開講されます。他研究科（経済学研究科・公共政策大学院等）の講義も履修できます。

2) 副専攻

主専攻（農業・資源経済学）に加え副専攻を選択することができます。主専攻を修了し、副専攻での単位を修得し最終試験に合格することが修了要件となります。ただし、農業・資源経済学を主専攻とする学生はあまり選択していません。（https://www.a.u-tokyo.ac.jp/grad/grad_subcourse.html）

3) アグリコクーン

講義・演習・実習を組み合わせた専攻横断的な大学院教育プログラムです。「食の科学フォーラムグループ」「国際農業と文化フォーラムグループ」「農学におけるバイオマス利用フォーラムグループ」「生物多様性・生態系再生フォーラムグループ」「農学における情報利用研究フォーラムグループ」「農における放射線影響フォーラムグループ」があります。（<http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/>）

4) 博士課程教育リーディング・プログラム、国際卓越大学院

入学後に募集がある修士・博士一貫教育のプログラムで、農業・資源経済学専攻に籍をおきながらそれぞれのプログラムの履修を通じて、国際的に通用するエキスパート・リーダー（博士）となる学生を養成するものです。

- ・高齢社会総合研究国際卓越大学院（WINGS-GLAFS）（<http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>）
- ・環境調和農学国際卓越大学院（WINGS-SAP）（<https://utsaep.wixsite.com/site>）

5) 履修科目の選択と論文の執筆

- ・各研究室に所属し、指導教員のアドバイスを参考に、履修科目を選択します。修了要件の単位数を満たすには、所属する研究室で開講するテキストゼミ、論文指導ゼミだけでなく、集中講義、他の研究室や他の研究科の講義やゼミを履修する必要があります。
- ・講義やゼミを履修しながら、指導教員のアドバイスを受けて修士論文を執筆します。
- ・修士課程を修了するには、2年以上在学し、30単位以上修得し、学位論文の審査を受けて最終試験に合格することが要件となります。
- ・修士論文 過去5年間のテーマ一覧は p. 16-17 を参照してください。

6) その他

農経オープン・セミナー：不定期に開催されるセミナーで専攻外・学外の研究者も出席します。

（<http://www.ec.a.u-tokyo.ac.jp/openseminar.html>）

6. 修士課程を修了した学生の進路

博士課程に進学する学生と就職する学生がいます。就職先は多様です。

【過去5年間のおもな進路】

当専攻博士課程、経済産業省、農林水産省、三誠国際、三菱 UFJ 銀行、JA 全農、全国地方銀行協会、農林中央金庫、日本政策投資銀行、三井住友信託銀行、日本経済団体連合会、クボタ、監査法人トーマツ、マクロミル、日本政策金融公庫、コンコード、丸紅、データフォーシーズ、日本 TCS、ミネベアミツミ、クニエ、金融庁、日本工営、NHK、野村證券、NTT ドコモ、マッキンゼー・アンド・カンパニー、セプテーニ、みずほリサーチ&テクノロジーズなど

7. 奨学金

以下のチームが奨学金を担当しています。これらの奨学金以外に、上にあげた国際卓越大学院など、入学後に応募できる大学内のプログラムには経済的な支援を含むものがあります。

- 日本学生支援機構奨学金：農学系教務課学生支援チーム
- 留学生奨学金：農学系教務課国際学務支援チーム

8. 大学院入試に関する問い合わせ先

農業・資源経済学専攻 専攻主任 安藤光義教授にお問い合わせください。

email: ando[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp

電話：03-5841-5322

9. Q&A

1) 社会人で働きながらの履修が可能ですか。

出願時において、官公庁、学校、会社等に在職中であり、入学時以降においても在職の見込みであれば、社会人特別選抜によって入学が可能です。入学後も在職していることが必要となります。入学後に離職予定であれば、一般選抜に出願してください。

木南 章 研究室 Lab. of Akira KIMINAMI

農業経営学と関連分野の学問を基に、農業ビジネスや地域の資源・環境のマネジメントをめぐる社会的な課題の解決を目指した理論と実証の研究に取り組んでいます。特に、起業家精神、イノベーション、事業多角化、新規参入、農業法人、経営戦略、経営管理、人的資源管理、技術普及、持続可能性などに焦点を当て、実態調査などによる質的分析と計量モデルなどによる量的分析の研究方法を組み合わせながら、研究を進めています。研究室には現在、修士課程 4 名、博士課程 4 名の大学院生が所属しています。2027 年 3 月に定年退職するため、論文指導教員になれる期間は 2 年間までです。

Web site: <https://sites.google.com/view/akirakiminami/home>

Research map: <https://researchmap.jp/read0123254>

Our laboratory conducts theoretical and empirical research aimed at solving social problems related to the management of farm businesses and local resources and the environment from the standpoint of farm business management and related sciences fields. Our research focuses on topics such as entrepreneurship, innovation, business diversification, new entrants, agricultural corporations, business strategy, human resource management, technology diffusion, and sustainability. We use a combination of qualitative analysis through field surveys and quantitative analysis using econometric models to conduct our research. Our laboratory currently has four graduate students in the master's program and four in the doctoral program.

I will be retiring in March 2027, so I have up to two years left to serve as a thesis advisor.

Web site: <https://sites.google.com/view/akirakiminami/home>

Research map: <https://researchmap.jp/read0123254?lang=en>

八木 洋憲 研究室 Lab. of Hironori YAGI

当研究室の主な研究領域は、農業経営学および農村計画学です。とくに、農業と地域との関係、そこでの組織に関わる人々の意識や行動、システムのデザインを対象とした理論的、実証的研究を行っています。研究指導においては、実践、理論、国際の3つ視点を重視しています。実践の視点として、各地域の問題解決に資するため、専門的な目線を持ちつつ当事者として参画できる人材育成を目指しています。理論の面では、農業経営学の研究動向はもちろん、経営学や関連する経済学、心理学等の研究動向をフォローしながら、現実を説明しよりよい社会を目指すための理論的フレームワークを構築することを目指しています。国際的観点として、海外の研究動向や実態を詳しく知るだけでなく、異なる条件におかれた農業、農村の実態や研究結果から、本質的に重要な法則を導き出す「抽象化」のプロセスと、そこから再び、それぞれの国・地域の実情にあわせた解決策を考える「具体化」のプロセスを繰り返すことを意識しています。

Our research area covers farm business management and rural planning. In particular, we conduct theoretical and empirical research focusing on the relationship between farming and the region, the people's intentions and behavior relating to various organizations, and the design of systems. In research guidance, we emphasize three perspectives: practical, theoretical, and international. i) Given the rapidly changing environment, presenting practical solutions to fit unique local conditions is required. Our laboratory aims to develop professionals who have the skills and knowledge to be involved parties. ii) We will build a theoretical framework to explain the reality of agricultural and rural domains. Our guidance focuses on examining mainstream and state of art theories in related areas such as managerial science, economics, psychologies as well as farm business management. iii) To develop skills to fit international situations, we emphasize repeating intellectual processes of abstraction and concretion—a process of drawing out essential principles from the observations, and a process of figuring out solutions to fit the actual circumstances of each country or region—is crucial.

研究領域および関連する活動/Research topic and activities

- ・ 農業経営の戦略、組織、地域との連携：経営戦略論や組織論、家族経営論などの国際的議論をふまえて、その現実的適用可能性や実践的知見について検討しています。
- ・ 都市農業、都市近郊農業：世界最大の都市圏である東京に拠点を置く研究室として、都市とその近郊での農業の持続可能性について検討しています。
- ・ 中山間地域の農業：人口が減少した中山間地域において、農業が持つ多面的な機能を活かしつつ、創意工夫を持つ人々が活躍できるための仕組みについて検討しています。
- ・ 情報技術の活用：新たな情報技術が農業に与える影響について、とくにそこに関わる人々や組織の視点から検討しています。
- ・ 「東大 Farm・Biz」：農業経営学の最新の理論、実証的知見について、農業経営に関わる方々とのディスカッションを通じて、新たな気づきに繋げる試みです。
- ・ Strategic management, organizations, and regional stakeholders: We examine the applicability of the mainstream and state of art theory discussion, and provide practical knowledge.
- ・ Urban and peri-urban agriculture: Located within the world's largest urban area, we investigate the sustainability of urban and peri-urban agriculture.
- ・ Agriculture in the less-favored areas: We aim to support entrepreneurs who are engaged in agriculture, related businesses, and activities to cope with depopulation of less-favored areas.
- ・ Information technologies: We examine the impact of novel information technologies with regard to organization and human factors.

連絡先等/Contact

Email: youken@g.ecc.u-tokyo.ac.jp, HP : <http://www.ann.hi-ho.ne.jp/youken/index.html>

本研究室のスタンスは農業・農村問題を、歴史的視点を重視しつつ、社会経済全体の枠組みに位置づけたうえで解き明かそうとするものである。第1の特徴は、農村の現場の視点から政策を捉え返すことにある。具体的な農村の現場で政策がどのように作用しており、何が問題を生じさせているのかを明らかにする。第2の特徴は、現在発生している問題を、歴史的な文脈の中に位置づけ、問題が進化・発展を遂げてきた「軌道」を措定し、それを丹念に描くことにある。第3の特徴は、「構造」と「歴史」という横糸と縦糸を織り合わせることで析出される、各国・各地域の個性に注目することである。

研究室の基本的な姿勢は「構造」と「歴史」という2つの異なる視点から、現場で生じる問題の多面的な描写によって、分析対象の「個性」を明らかにし、そこに普遍性を見出すことである。政策の評価を、その展開過程の文脈に注目しながら行うことが最終的な到達目標である。

The stance of our laboratory is to try to elucidate agricultural problems and rural issues from a socio-economic framework while paying attention to historical perspectives. The first feature of our laboratory is to understand policies from the perspective of local farmers and rural communities. We will clarify how policies are actually working in rural areas and what causes problems. The second feature of our laboratory is to position current issues in a historical context, to posit the "trajectory" along which the issues have evolved and developed, and to describe them accurately. The last feature is that we are paying attention to the peculiarities of each country and region that is to be crystallized by interweaving the weft of "structure" and the warp of "history."

The basic stance of this laboratory is to clarify the specificity of the subject of analysis and find universality in it by accurately describing regional problems from two different perspectives, "structure" and "history." The ultimate goal is to evaluate policies with a focus on the context of their development process.

研究課題 Research topics

- ・農業構造問題：センサス分析、集落営農の展開方向、農地利用調整
- ・農地制度論：農地政策の展開過程、都市計画制度と農地、不在地主問題、農地中間管理機構
- ・農業政策の形成・変容過程：水田農業政策、土地改良区の運営問題、基本法と予算措置
- ・外国農業と比較農政：英国農村政策の形成過程、EU 共通農業政策改革、逆都市化の国際比較
- ・外国人農業労働者と移民制度：農業における資本賃労働関係成立の条件、国際労働力移動
- ・Farm structure problem: Census analysis, Development of community farming, Farmland use adjustment based on rural community
- ・Farmland system: Farmland policy development process, Urban planning system and farmland system, Absentee landowner problem, Farmland intermediary management organization
- ・Agricultural policy formation and transformation process: Rice paddy field policy, Management issues of land improvement districts, Agricultural Basic Law and budgetary measures.
- ・Foreign agriculture and Comparative agricultural policy: Formation process of British Rural Policy, Common Agricultural Policy Reform, International comparison of counter-urbanization.
- ・Foreign agricultural workers and the immigration system: Conditions for establishment of capital-wage-labor relations in agriculture, International labor migration

連絡先等 Contact Information

E-mail : ando[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp

Website : <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/agripo/>

研究内容 Research Areas

食料・農業・農村およびこれに関連する政策研究を行っています。経済的な視点を基礎に、政治的・行政的・社会的・歴史的などの視点を取り入れた社会科学的な観点から、食料・農業・農村政策に関わる問題について、理論的・実証的な解明を行います。その手法として、統計データを用いた分析や、現地の実態調査を行います。

I conduct policy research on food, agriculture, rural areas, and related topics from an economic perspective, and incorporate political, administrative, social, historical, and other viewpoints to theoretically and empirically examine issues related to policies on food, agriculture, and rural areas from a social science standpoint. The method includes statistical data analyses and field surveys.

研究テーマの例 Examples of Research Topics

- ・食料政策
家計のフード・インセキュリティ、食料安全保障、フードロス、子ども食堂
- ・農業政策
基本法と予算措置、政策形成過程、農業財政・金融、海外の農業政策
- ・農村政策
地域間格差と再分配、農村振興政策（EU/ドイツ）、再生可能エネルギー、ソーシャルキャピタル
- ・関連分野
財政、地方財政、法令、政治、行政、政策史、農村社会、国際関係
- Food Policy
household food insecurity, food security, food loss and waste, community kitchen for children
- Agricultural Policy
basic act, budgetary measure, policy making process, foreign agricultural policies
- Rural Policy
regional inequality, rural development policy (EU/German), renewable energy, social capital
- Related Fields
public finance, law, politics, administration, history, rural society, international relations

連絡先等 Contact Information

E-mail : [akojima\[at\]g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:akojima[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

Website : <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/agripo/>

世界経済は相互依存の度合いを強め、あらゆる事象が共有され互いに影響しあっています。ひとつの経済現象を分析するにも、経済理論はもちろんのこと背後にある相互関係やリンクを念頭におく必要があります。私の研究室では様々な経済現象とその変化を理論と実証で明らかにすることを研究課題としています。農業はもちろんですが、全ての経済現象は相互に関わり合っているという認識の下で、幅広く研究テーマを設定しそれぞれの学生・研究者が相互に議論する環境を大事にしています。

The global economy is becoming increasingly interdependent, with all events being shared and mutually influencing one another. To analyze any economic phenomenon effectively, it's essential to consider not only economic theories but also the underlying relationships and interconnections. In our laboratory, we prioritize studying various economic phenomena and their changes through both theoretical frameworks and empirical evidence. Acknowledging the interconnected nature of all economic phenomena, we focus on setting a wide range of research topics, encompassing not only agriculture but also diverse areas. We highly value an environment where students and researchers can engage in mutual discussions.

研究室の運営方針 Policy for our laboratory

研究テーマは自由であり、経済学的分析を行うのであれば、ミクロ・マクロ、日本・海外、途上国・先進国、いずれも問いません。研究テーマの選択はそれ自体が研究の一環をなしており、問題発見能力を身につけ何がどのように重要であるかを認識する能力を養うことを目的としています。経済学的分析を行うわけですから、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の「使える知識」をマスターすることが前提になります。

The research theme is free to choose if conducting economic analysis, both micro and macro perspective, domestic and foreign, developing and developed countries are acceptable. The selection of research themes is itself an important part of the research process, aimed at developing the ability to identify problems and understand what is important. Since economic analysis is conducted, mastering the working knowledge of microeconomics, macroeconomics, and econometrics is essential.

研究テーマ Research topics

具体的な研究課題としては、経済発展における農業・農業部門の役割、異なる発展段階における諸国間の相互依存関係（農業政策・貿易政策）、農業(畜産)生産の不確実性と食料安全保障、発展途上国のフードセキュリティ（貧困緩和、脆弱性分析）、気候変動と農業生産・農業所得に関する経済分析などミクロ的視点とマクロ的視点の両方を組み合わせ、現実問題を常に念頭において実証的・数量的に分析しています。

Specific research topics include, (1) the role of agriculture/rural economy on economic development, (2) interrelationship among countries in different stage of economic development (agricultural and trade policies), (3) uncertainty in agricultural and livestock production and food security, (4) poverty and vulnerability in developing countries, and (5) economic analysis of climate change. *We combine both micro and macro perspectives to solve real world issues with quantitative and econometric analysis.*

連絡先等 Contact Information

E-mail katsuhirosaito[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp

HP <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/agriecon/index.html>

川崎 賢太郎 研究室 Lab. of Kentaro KAWASAKI

農業経済学の一つの使命は、数量的なエビデンスや理論的な考え方を提示することです。当研究室では、数量的（計量経済学、機械学習、シミュレーション分析）ないし理論的アプローチを用いて、様々な研究課題に取り組んでいます。

教員自身がこれまで扱ってきたテーマは、生産（生産性、農地、品質、新技術の採択等）、消費、環境（気候変動、有機農業、環境保全オークション等）、開発（経済発展、肥料の不正、獣害等）、貿易、政策分析（EBPM、補助金改革、農業保護の推計等）などですが、学生の皆さんの関心がこれと同じである必要は全くありません。好きなテーマに取り組んでください。学会発表や学術誌への掲載につながるような高水準の研究を目指して、しっかりとサポートします。

当研究室では、様々なテーマの図書や論文を輪読するテキストゼミと、学生自身の研究経過を発表する論文指導ゼミの、二種類のゼミを開催しています。論文ゼミは齋藤勝宏教授と合同で開催しています。ゼミでは、ミクロ経済学と計量経済学の基本的な知識が必須となりますので、入学までにしっかりと身に着けておいてください。

One mission of agricultural economics is to present quantitative evidence and theoretical perspectives. In our research lab, we tackle various themes using quantitative (econometrics, machine learning, simulation analysis) or theoretical approaches.

So far, I have dealt with various topics such as production (productivity, land, quality, adoption of new technologies), consumption, environment (climate change, organic farming, conservation auctions), development (economic growth, fertilizer quality, wildlife damage), trade, and policy analysis (EBPM, subsidy reform, agricultural protection). However, students' interests do not need to align with these. I encourage students to freely propose topics of their interest. I provide solid support to help your research reaches a high standard suitable for presentation at academic conferences and publication in academic journals.

We provide two types of seminars: one where we read and discuss various textbooks and papers, and another where students present their research progress. The latter is held jointly with Professor Katsuhiko Saito. Microeconomics and econometrics are essential in these seminars, so please ensure you have a basic understanding of these subjects before enrollment.

連絡先等 Contact Information

E-mail: [kawasaki-kentaro\[at\]g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:kawasaki-kentaro[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

Website: (Japanese) <https://researchmap.jp/Kentaro.KAWASAKI/>

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/agriecon/index.html>

(English) <https://researchmap.jp/Kentaro.KAWASAKI/?lang=en>

1. 研究室の紹介 Introduction of the laboratory

研究室では、食料と資源に関する研究が主軸となっています。食料は、農業の主要な産出物であり、また、私たちが生きていく上で必要不可欠です。そのため、対象とする範囲は幅広く、生産を行う農業経営体と私たち消費者だけでなく、農業生産資材や流通、小売までを対象にしています。また、食の未来についても対象としています。資源については、農業生産の基盤となる土地と水資源を始めとして、地球環境までを含む領域をカバーしています。

The main research areas of the laboratory are food and resources such as land and water. Food is the main product of agriculture and is essential for our daily lives. Agricultural production is not possible without land and water. Therefore, the scope of our research is broad, covering agricultural production, rural issues, and food consumption to environmental and resource problems not only in Japan but around the world.

2. 研究室の運営方針 Management policy

研究室では、テキストゼミと論文指導ゼミの2つを通じて、研究の基礎となる理論を学びつつ、修士論文や博士論文につながる指導を行っています。所属する大学院生は、各々のテーマに取り組みながら、互いに活発な議論や情報交換を行なっています。

近代経済学の理論をベースに、統計学および計量経済学の手法も利用しながら、研究を進めていますが、統計や分析手法の単なる適用にとどまらず、関連する制度や政策、既存研究の精査とともに、フィールド調査も重視しています。

In the laboratory, students learn basic theories that form the basis of their research through the text reading seminar. The thesis guidance seminar guides the students to building their master's or doctoral dissertations in good ways. Graduate students in the laboratory engage in active discussions and exchange information with each other while working on their respective research themes.

We use statistical or econometric methods in our research along with the neo-classical economic theory. We also emphasize field research as well as a close examination of related institutions, policies, and existing literature.

3. 担当教員について The faculty member in charge

計量経済学をはじめとする統計解析を通じて、食料・農業・農村に関する広範なテーマを対象に研究を進めてきました。統計解析のプログラム作成や数理統計的な手法そのものに関する研究経験も有しています。詳細は<<https://researchmap.jp/naktom>>で確認してください。

Associate Professor Tomoaki NAKATANI supervises this laboratory. He has conducted research on a wide range of topics related to food, agriculture, and rural areas. He has two Ph.D. degrees, one in agricultural economics and the other in economic statistics. For more information, please visit <<https://researchmap.jp/naktom>>.

4. 連絡先等 Contact Information

E-mail: [atn\[at\]g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:atn[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

HP : <https://researchmap.jp/naktom>

教員の研究内容 Specialized field

農協を中心とする協同組合や、農業・農村分野の金融・保険などで研究を行ってきました。近年は、森林・林業の財政と森林組合などの組織、および畜産の飼料生産について研究を行っています。分析の手法は、金融論や経済組織論などをベースとし、現地で聞き取りや統計数値の解析を中心としています。

I have been engaged in the studies on agricultural or rural finance and insurance which are mainly operated by cooperative organizations. Recently, I am studying forest conservation or economy, and feed production in Japan. Analytical framework applies the theories of finance or economic organization. Methodologies depend on field interviews and analyses of statistical data.

大学院での教育方針 Education policy in this laboratory

学部学生の時期には、ミクロおよびマクロ経済学、計量経済学などの基礎的な経済学が習得されていることを期待します。大学院に入学された学生には、金融論や協同組合論を中心に指導や助言を行う予定ですが、学生の希望やニーズに即して学術的な文献を演習において通読していく方針です。(2028年3月に定年退職の予定ですので、2025年度から3年間のみ指導が可能です。)

Students in this laboratory are expected to finish basic micro / macro economics and econometrics in undergraduate period. In the graduated course education, I will give academic suggestions depending on the economic theories of finance or cooperative organizations. And I am going to hold several seminars where we read academic papers depending on the interests or needs of the participating students. (I can become an advisory professor only until March 2028, because I have to retire from the current status then.)

教員が従事してきた研究課題 (Main research topics)

Agricultural finance and rural financial development in comparison to the situations of developing countries: My achievements can be searched using the following URLs etc.

Please fill in my name, [万木 孝雄] or [YURUGI Takao].

<https://cir.nii.ac.jp/> <https://cir.nii.ac.jp/?lang=en>

連絡先 (Contact)

E-mail: [yurugi\[at mark\]g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:yurugi[at mark]g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

Website 1: <https://sites.google.com/g.ecc.u-tokyo.ac.jp/yurugi/> (Only in Japanese)

Website 2: Laboratory of Rural Development Finance with Prof. Takeshi SAKURAI
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/ruralfinance/>

過去5年間の修士論文のテーマ一覧 List of master's thesis themes for the past five years

2019 年度

- ・小学生の知識・食習慣・運動習慣・体力・体格に対する教育介入の効果—ガーナ都市部の事例—
- ・水田地帯における農産物直売所を中心とした園芸作振興—新潟県上越市の直売所「あるるん畑」を事例として—
- ・大正・昭和初期における酒造業の階層構造分析—小規模経営を中心として—
- ・水田経営における営農管理情報システムを用いた作業関連情報の取得と活用
- ・Improving Rice Farmers' Productivity in Sub Saharan Africa: An Impact Evaluation of JICA's Intervention in Mwea Irrigation Scheme, Kenya.
- ・The Impact of Tourism on Agriculture: a case study of Irish Potatoes in Rwanda
- ・The Factors Influencing Fresh E-commerce Consumers' Purchasing Intention in Beijing, and the Analysis of the Developing Strategy of the Company, JD.com
- ・国産オリーブ産業の事業拡大戦略と持続可能性に関する研究
- ・Vegetable production and its impact on smallholder farmers' livelihoods: The case of the central highlands of Madagascar

2020 年度

- ・酪農経営におけるアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の成立条件に関する研究
- ・食事準備への取り組み方の規定因と新型コロナウイルス感染拡大の影響
- ・Diversification in crop-livestock farming systems and effects on farm household livelihoods in Benin
- ・食関与の現状と 決定要因に関する研究
- ・Impact of Language-in-Education Policy on Literacy, Education and Welfare in Ghana
- ・Performance of Tank Irrigation System and Its Determinants: The Case of Tamil Nadu in India
- ・Determinants of junior high school student's educational aspiration: A case study of China
- ・Examining the factors which have influence on the scale of rice farming: A prefectural panel data analysis focusing on Japanese rice insurance program
- ・都市農地が住環境に及ぼす影響の評価—統計的因果推論によるアプローチ—
- ・日本農業金融市場における信用割当の研究
- ・農業法人における経営理念の実態と経営戦略への影響分析
- ・Impact of Husbands' and Wives' Risk Preference, Bargaining power on Technology Adoption: The Case of Rice Farmers in Rural Madagascar
- ・Analysis of the Current Business Situation and Sustainable Development Strategy of Shanghai Leisure Farms

2021 年度

- ・How did COVID-19 affect rural Myanmar?- Impact analysis using delinquency data of a microfinance institution —
- ・市区町村間の所得格差とその形成要因
- ・Polygamy and Agricultural Efficiency: Evidence from Burkina Faso
- ・フードリテラシーの形成要因と食行動への影響
- ・家計の食品ロスの発生要因に関する分析—消費者の属性や行動に着目して—
- ・農業法人における正社員採用活動の特質と評価—求人情報と事例調査に基づく分析—
- ・Economic Impact of African Swine Fever Outbreak in China: Focusing on the Differences between Pork-exporting and Pork-importing Provinces.

2022 年度

- ・スマート農業普及過程における産地の役割

- ・露地野菜の契約取引における生育予測システムの導入効果
- ・観光資源としての食の形成過程と機能～淡路島における牛肉の事例を中心に～
- ・The impact of market-oriented extension on smallholder farmers in Burkina Faso
- ・外食が提供する価値に関する研究
- ・コメ先物市場が現物市場に与える影響—EGARCH モデルによる分析—
- ・食品購買チャネル選択が栄養素摂取に与える影響—購買履歴データを用いた分析—
- ・The Differentials of Live-streaming Characteristics on China's Fruit Market Prices: Comparison of Producers and Professional Live-streaming Hosts

2023 年度

- ・食料・農産物貿易における非関税措置の効果 —構造重力モデルによる接近—
- ・家族に向けた食料購入の経済分析 —価格および支出の変化に対する需要反応の異質性—
- ・Exploring the Effects of Agricultural Commodities Export on Value Chain Upgrading: A Case Study of Armenia's Wine Sector (
- ・水稻作におけるロボットトラクターの導入効果
- ・青果物卸売市場における取引慣行 東京都中央卸売市場における返品慣行に着目して
- ・有機農業と認証の決定要因 —全国の有機 JAS 農家を対象とした計量分析—
- ・Effect of Water Access and Insurance on Livestock Mortality in Kenya
- ・「日本型食生活」の方針に関する研究 ～食育推進基本計画の立案過程に着目して～
- ・The Analysis of Factors behind Fluctuations in the Exportation of Shandong-gyu from the 1900s to the 1930s
- ・集落機能を維持する組織における参加主体の心理的要因 —中国地方の中山間地域に着目して—
- ・The adoption of improved pigeon pea varieties and its impact on households' welfare in Malawi
- ・地域貢献型地熱発電事業の展開過程—熊本県小国町岳の湯地区のわいた地熱発電所を事例に
- ・日本の水田作経営における多作目生産の効率性分析 —投入距離関数による全要素生産性と範囲の経済の把握—
- ・地域課題解決のプロセスに基づく地域プラットフォームの展開過程と創出される価値の変化—岡山県真庭市の事例から—
- ・稲作経営の園芸作導入にソーシャル・キャピタルと経営者態度が与える影響

参考：農業・資源経済学専攻の2023年度実施入試の配点
Examination Scoring of the department of Agricultural and Resource Economics in 2023

修士課程 Master's Course

(1) 一般選抜 General Admissions

外国語 Foreign Language 300 点 score 専門科目 Special Subject 600 点 score
口述試験 Oral Examination 100 点 score 合計 Total 1000 点 score

(2) 社会人特別選抜 Special Admissions for Working Adults

外国語 Foreign Language 300 点 score 専門科目 Special Subject 300 点 score
研究計画・口述試験 Research Plan and Oral Examination 400 点 score 合計 Total 1000 点 score

博士後期課程 Doctoral Course

(1) 一般選抜 General Admissions

(1-1) 学外受験者 Graduates of other department

外国語 Foreign Language 300 点 score 専門科目 Special Subject 700 点 score
論文・口述試験 Master Thesis and Oral Examination 1000 点 score 合計 Total 2000 点 score

(1-2) 学内受験者 Graduates of this department

論文・口述試験 Master Thesis and Oral Examination 1000 点 score 合計 Total 1000 点 score

(2) 社会人特別選抜 Special Admissions for Working Adults

(2-1) 学外受験者 Graduates of other department

外国語 Foreign Language 300 点 score 専門科目 Special Subject 700 点 score
研究成果・口述試験 Research Results and Oral Examination 1000 点 score 合計 Total 2000 点 score

(2-2) 学内受験者 Graduates of this department

研究成果・口述試験 Research Results and Oral Examination 1000 点 score 合計 Total 1000 点 score